

地方人口ビジョン等の策定にかかる手引きの比較

地方人口ビジョンの
位置づけ・基本的な考え方

将来展望を行うにあたって
の仮定値の設定

地方人口ビジョンの策定のための手引き
(令和元年12月版)

- ・地方版総合戦略において、施策を企画立案する上で重要な基礎と位置付け
- ・人口の現状を分析
→めざすべき将来の方向と人口の将来展望を提示

- ～以下を例示～
- 自然増減に関する仮定
合計特殊出生率が
2030年に1.8程度、
2040年に2.07に到達 等
 - 社会増減に関する仮定
人口移動が最も落ち着いていた
時期の移動率を用いる 等

地方版総合戦略の策定等に向けた
人口動向分析・将来推計人口の手引き
(令和6年6月版)

- ・地方版総合戦略の策定等に向けた基礎資料とすることが期待される
- ・地域の実情に応じて人口動向分析・将来人口推計を実施
→地方公共団体における人口の現状及び将来の見直しを見直すよう努める

- ～以下を例示～ 具体的な数値の例示なし
- 全国の変化に連動するという考え方に基づいて、出生に関する仮定値を設定
 - 複数期間の平均的な人口移動傾向に基づいて、移動に関する仮定値を設定 等

○国におけるこれまでのビジョン（「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」（平成26年度策定、令和元年度改訂））

- ・合計特殊出生率
①2030年に1.8程度、2040年に2.07程度 ②2035年に1.8程度、2045年に2.07程度 ③2040年に1.8程度、2050年に2.07程度（令和元年改訂版においても、同様の仮定）

○県におけるこれまでのビジョン（「三重県人口ビジョン」（平成27年度策定、令和2年度改訂））

- ・合計特殊出生率：2025年に1.8、2040年に2.1に到達。（令和2年度時点修正版においても、同様の仮定）
- ・転出超過数：2035年に均衡（0）となる。（令和2年度時点修正版においては、2040年に均衡（0）となると仮定）